

新しい里山・里海共創プロジェクト 1 周年記念

京都大学舞鶴水産実験所で 7 月 22 日(土)に「柴漬け体験イベント」開催

2023 年 7 月 22 日(土) (午前の部 10 時開始・午後の部 14 時開始) に、京都大学フィールド科学教育研究センター [舞鶴水産実験所](#) (京都府舞鶴市長浜番外地) にて、小学生を対象に、木の枝を縛って作成した魚礁「柴漬け」に集まる生物の観察と行動実験を行います。生物観察や行動実験を通して、里山や里海の自然が研究・地域社会にどのように関連するのか、実際に体験することで理解を深めてもらうことが狙いです。

新しい里山・里海共創プロジェクト^(注釈1)は、イオン環境財団^(注釈2)と京大フィールド研^(注釈3)の連携協定のもと、森里海連環学に基づく里山・里海の共創に向けた教育・研究・社会連携活動を進めており、本事業はこのプロジェクトの一環です。第 1 回目 (4 月) には、舞鶴市近郊の小学生と保護者 20 名程度に來訪いただき、小学生自らが針葉樹と広葉樹の 2 種類の「柴」を作成し海に沈めることで、里山の恵みが漁業に活かされることを学びました。その後 3 か月にわたり、柴には様々な生き物が付着・滞在することを、当実験所の研究者の潜水観察をもとに確認し報告してきました

(https://collabo.fserc.kyoto-u.ac.jp/news/p9qHpwi_)。第 2 回目にあたる今回は、これらの柴を引き上げ、集まった生物を観察します。また、採集された魚を用いての行動実験を予定しています (下記図参照)。本事業は、京都の里海に親しんでもらうだけでなく、子供たちの生き物に対する理解力や実験結果に対する考察力などを育み、生物学や自然科学、そして森里海連環学を学ぶきっかけとしていただくことも目指しています。

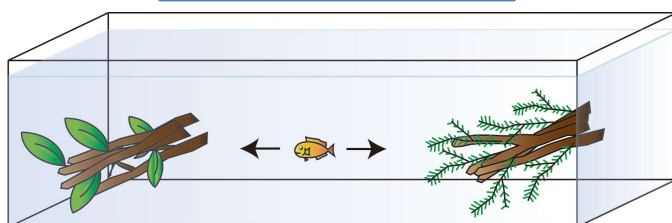
また、新しい里山・里海共創プロジェクトは 7 月に事業 1 周年を迎えることから、舞鶴水産実験所にて行う生物観察・実験会に合わせ、これまでの活動を振り返ります。



柴漬けに集まる生き物



第一回柴漬け作成の様子



行動実験：採集された魚は、広葉樹と針葉樹どちらの柴を隠れ家として利用するのか？

<お問い合わせ先> 京都大学フィールド科学教育研究センター企画情報室 (<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/>)

TEL : 075-753-6420 FAX :075-753-6451

E-mail : fserc-info@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(注釈1) 新しい里山・里海共創プロジェクトの概要

2022 年に、京都大学フィールド科学教育研究センター（センター長：朝倉 彰、以下 フィールド研）と公益財団法人イオン環境財団（理事長：岡田元也、以下 イオン環境財団）との連携協定が結ばれました。本連携協定は、森里海連環学に基づく新しい里山・里海の共創に向けた教育・研究・社会連携活動を中心とする両組織の交流を促進し、人材育成、研究、社会貢献、自然と生態系の保全などの分野で、相互に連携協力し、持続可能な社会の発展に寄与することを目的としております。本連携協定のもと、連携事業「新しい里山・里海共創プロジェクト」を行っております。具体的には以下のような3つの柱にそった活動を進めています。

・ 里山・里海の現状を知る

各地域の里山・里海の自然・文化的特徴を理解し、持続可能な里山・里海の現状を知るための方法を開発します。多様性調査、環境 DNA、化学分析等による自然科学をベースにした調査だけでなく、アンケートや聞き取り調査などの社会科学をベースにした調査を通じて、里山・里海の地域ごとの特徴を評価します。各地域の里山・里海で活動する方々と協力し、可能なかぎり市民参加による調査や地域ワークショップを実施し、将来は自律的に管理していける体制づくりにつなげていきます。

・ モデルとなる里山・里海をつくる

フィールド研の施設を活用して、各地域の里山・里海の知恵を収集し、最新の研究成果等も取り入れた新しい里山・里海づくりを市民の皆さんと一緒に実践しつつ、教育・研究・社会連携活動に活用していきます。また、小さいお子さんからお年寄り、障がいのある方など誰もが参加できる里山・里海づくりのあり方を模索していきます。さらに再生エネルギーの活用や DX 技術の活用など先進的な里山・里海づくりを目指して活動を進めていきます。

・ 新しい里山里海を創る人たちとつながる

近畿を中心に里山・里海の活動団体に声をかけ、勉強会や交流会を開催し、様々な活動を繋ぐコンソーシアムをつくりまします。また里山・里海に関心を持つ幅広い世代の人が、各地域の活動に参加できる仕組みをつくりまします。さらにフィールド研のネットワークを活用して専門家の派遣や地域の課題に対して科学的な視点で取り組みを持続するための様々な支援を行います。

プロジェクトが本格的に開始してから約1年ですが、これまで舞鶴水産実験所での柴漬けイベント以外にも、瀬戸臨海実験所附属の白浜水族館でのイベントや島島のビーチクリーン、月に一度の上賀茂試験地での里山おーぷんらぼなどのイベント活動を展開してきました。さらに本プロジェクトでは、里山里海勉強会を年4回程度開催していく予定で、第3回は7月14日（金）に開催します（<https://collabo.fserc.kyoto-u.ac.jp/news/f1RepWlw>）。

その他、多くの活動団体を視察して、様々な優れた取組を見学させてもらい、活動に参加される皆さんとも意見交換を進めてきました。さらに研究では、舞鶴伊佐津川の生物調査や京都市西山の水質調査なども展開しています。

※本プロジェクトのお知らせページ（<https://collabo.fserc.kyoto-u.ac.jp/>）で活動を定期的に紹介していますので、是非ご覧ください。



島島ビーチクリーンの様子



〔注釈2〕公益財団法人イオン環境財団について

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹(イオンの森づくり)」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業を中心に環境保全に取り組んでおり、現在は持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでおります。＜ホームページ <https://www.aeon.info/ef/>>



マレーシア・ベラ州ビドー植樹

【植樹活動】

自然災害や伐採などで荒廃した森林の再生、気候変動課題の解決などを目的し、国内外の地域行政と協力し、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。当財団の植樹を含むイオン全体の植樹の累計本数は、1991年のスタートから数えて約1,255万本（2023年2月末時点）となります。

【助成】

1991年より開始された助成事業は、国内外で、地域に根ざし、環境活動に積極的に取り組む非営利団体を対象に、活動費の一部を支援しています。32年間でのべ3,333団体に総額30億2,961万円の助成を行ってまいりました。基本テーマと活動分野は時代の変化に則して設定し、2021年からは「里山コモンズの再生」を基本テーマとしています。

【環境教育】

環境課題への関心を高めるための学びや気づきの場を提供しています。環境分野の国際的な人材育成を目的として、アジア各国の大学生が地球環境問題について討議、提言を行う「アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)」を2012年から毎年開催し、これまでに10か国のべ763名が参加しました。再生可能エネルギー活用の啓発・普及を目的とした小中学校への「太陽光発電システムの寄贈」は、2009年からこれまでに4か国の56校に寄贈しました。また2020年からは「イオンの森」を活用した学習として、小中学生が森の「炭素蓄積量調査」を実施しています。

【パートナーシップ】

専門性をもつステークホルダーと連携して環境課題に取り組んでいます。2020年に早稲田大学、2021年に東北大学、2022年に東京大学並びに京都大学と連携協定を締結し、「AEON TOW A リサーチセンター」「イオン防災環境推進協働研究部門」「イオン東大里山ラボ」「新しい里山・里海共創プロジェクト」をそれぞれ設立し、「新しい里山づくり」に関する取り組みを開始しています。

〔注釈3〕 京都大学フィールド科学教育研究センター（フィールド研）について

フィールド研は、京都大学が長年にわたって森林域、里域、海域の教育研究の現場としてきた9施設が集まり2003年に設立されました。太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に、北海道から山口県までの広域に施設を持っています。

フィールド研は、学内共同教育研究施設として京都大学の各研究科の学生の教育、教員による研究の支援を行うとともに、全学共通教育への科目提供、農学研究科、理学研究科へ協力講座として参画して大学院教育および学部教育を行い、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画しています。さらに、学内外の学生や研究者の教育研究を支援しており、5施設（3拠点）が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されています。所属教員の専門分野は多岐にわたり、森－海－海の連環を軸とした教育・研究を進めています。



全国に展開するフィールド研の施設

〔フィールド研が進める森里海連環学〕

フィールド研では、2003年より森里海連環学（もりさとうみれんかんがく）を提唱し、森から海までの物質や人を含む生物の繋がりを明らかにする研究に取り組んできました。森里海連環学は気仙沼の牡蠣漁師である畠山重篤氏が唱える「森は海の恋人」に科学的な裏付けができないか、という発想から生まれ発展してきました。森里海連環学はSDGsの基盤といえるものでもあり、森と海はつながっていること、そして、人はそのつながりの中で在り方を考えなければならないことを再認識し、自然と人との持続可能な共存原理を考えていくものです。

提唱者である初代センター長の田中克名誉教授は著書の中で、森里海連環学とは「大学内の学問だけでなく、住民が人と人、人と自然、自然と自然のつながりのたいせつさに思いをはせ、人々が「力を合わせてみんなで生きていこうよ」という意識を共有しながら住民が進化させていく学問である」と紹介されており、京大フィールド研では、森里海連環学から生まれた研究成果を元に、社会の様々な主体とともに森里海のつながりやその分断について学び、持続可能な社会に向けた様々な活動を生み出す、社会連携活動を推進しています。



森里海連環学に関する教科書

(補足資料) 一般向け柴漬け体験イベントのポスター

参加者
募集

京都大学舞鶴水産実験所で 木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！

参加費無料

小学生対象

伝統的な漁法である「柴漬け」を設置し、私たちの身近にある「海」には、どのような生き物がすんでいるのかについて、柴の中に入り込んだ魚や、柴に付着した生物を観察し、海を守ることの大切さについて一緒に学びましょう！



参考写真
出典：三方五湖世界農業遺産推進協議会

1日目 4月22日(土)実施

2日目 7月22日(土)実施

柴づくり

海に沈める

- ・木の枝を結び漁礁をつくる

- ・実験所の栈橋から柴を沈める

引き上げる

観察する

- ・網を使って柴を引き上げる

- ・柴に付着した生き物を調べる

- 日時 : 【1日目】4月22日(土) 14時～16時
【2日目】7月22日(土) 14時～16時
*2日間とも参加できる方が対象となります
*受付は各回15分前から開始です

- 会場 : 京都大学舞鶴水産実験所(住所:舞鶴市長浜番外地)

- 対象 : 小学生と保護者 計10名程度(先着順)
*小学生のご参加は、保護者の付き添いが必要です

- 応募 : 右記のQRコードから応募フォームにご登録ください→
【締切り日】4月10日(木)15時まで
*満席になり次第受付終了となります



<https://forms.gle/mpb4cqnm46dsykdc9>

- 備考 :
- (1)筆記用具、上履き、軍手は各自でお持ちください
*1回目(4/22)の時は、長袖長ズボン、運動靴の着用を推奨
 - (2)30分程度の講義がありますので、今回は未就学児の方はご遠慮いただいております
 - (3)現地集合現地解散となります
(実験所内駐車場利用可能)
 - (4)雨天決行です
 - (5)当日のコロナ感染症予防については各自で対策をお願いします
 - (6)水産実験所には自販機がないため、水筒をお持ちください

【主催】
京都大学フィールド科学教育研究センター
公益財団法人イオン環境財団

【問合せ先】
ef@email.aeon.biz
イオン環境財団 飯田 宛